

## 明治安田生命 2022年度新入職員向けメッセージ（要旨）

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 永島 英器）は、新入職員を迎え、入社式を行ないました。以下のとおり、社長挨拶の要旨をお知らせします。

### 1. 明治安田生命とはどんな会社なのか

- 当社は旧明治生命と旧安田生命が2004年1月に合併して誕生した、141年の歴史と伝統を持ち合わせた日本最古の生命保険会社である。
- 当社の歴史のなかで、最大の危機と言えるのは、2005年の「不適切な保険金不払い」に基づく二度にわたる行政処分であった。すべての役職員が誇りと自信を失ったなか、全役職員が結集して再挑戦し、「お客さま満足度」の向上と将来にわたる安定的な成長の実現をめざし、ガバナンスの強化や支払管理態勢を中心とした基幹機能の強化など、大胆な構造改革を進めてきた。その結果、お客さまからの信頼は着実に改善し、「お客さま満足度」は、2021年も総合満足度・商品満足度・営業担当者に対する満足度が過去最高を更新した。
- 足もとでは、2020年から始まったコロナ禍等により、格差や分断の拡大が進んでいるが、一方で持続可能な社会の大切さの認識はより深まったと感じている。生命保険とSDGsとの関係に焦点を当てると、生命保険はその活動自体が、お客さま一人ひとりの安心や幸せを持続可能たらしめる、きわめて人間らしい営みであり、持続可能な社会の実現、すなわちSDGsそのものと言える。
- 当社ではすでに、2017年から企業理念「明治安田フィロソフィー」を経営の中心に据える「パーパス経営」を実践している。お客さまに「確かな安心を、いつまでも」お届けするとともに、「信頼を得て選ばれ続ける、人に一番やさしい生命保険会社」となることをめざしており、これは「持続可能な社会の実現」を目的としたSDGsの理念と軌を一にするものである。

### 2. 明治安田生命は今後何をめざしていくのか

- 持続可能な社会が意識される現在においては、企業には「経済的価値」だけでなく、「社会的価値」の創造が求められ、企業も個人も、従来以上にその「ありよう」が問われる時代になっている。
- 当社は2020年4月にスタートした10年計画「MY Mutual Way 2030」では、「10年後にめざす姿」を『ひとに健康を、まちに元気を。』最も身近なリーディング生保へ」と定め、「経済的価値」と「社会的価値」を両輪として好循環させ、サステイナブルな社会づくりに貢献することを宣言している。

- 「健康寿命の延伸」という社会課題に対しては、「みんなの健活プロジェクト」の推進を通じて、従来の生命保険のビジネスモデルを大きく転換し、お客さまが健康を損なったときの経済的保障に加え、お客さまが健康を損なうまえに、健康増進を働きかける役割を担っていく。
- 「地方創生」という社会課題に対しては、「地元の元気プロジェクト」および「明治安田生命Jリーグ」の応援等を通じて、すべての従業員が地域とかわり、地域に貢献していくことで、例えば、一人暮らしの高齢者の方が孤立しないよう、地域のコミュニティーとの関係づくりのお手伝いを行なっていく。

### **3. みなさんに期待すること**

#### **【自立した個、自己変革・自己成長】**

- 前述した「明治安田フィロソフィー」を「自分ごと化」するためには一人ひとりが、まず自分自身が「何者で」「何をめざし」「何を大切にしているのか」を問い続け、答えを出すことが必要である。自分が主役のたった1回の舞台である人生を輝かせるためにも、「自分自身の価値観」と「会社の価値観」を心のなかで対話させて、自分の人生の意味、働く意味、幸せの意味を自問自答してしっかりと考える「自立した個」であってほしい。
- メンバーシップ型雇用にこだわる当社では、従業員一人ひとりを大切にする。しかし、その条件、前提として、不断の自己変革・自己成長を求める。例えばデジタル化で仕事がなくなっても、雇用を切ることはないが、新しい職務にチャレンジしてもらう。会社は「新しい職務、可能性にどんどんチャレンジしてもらう」ために、選択肢を増やし、惜しみなく、そのチャレンジを後押しする。

#### **【DNAの継承】**

- 当社は、2005年の「不適切な保険金不払い」等の不適切な業務運営によって二度にわたる行政処分を受けてお客さまの信頼を失った際、会社のルールや体制を抜本的に見直し、お客さまを大切にする経営に大きく舵を切り、全役職員が努力して現在に至っている。この歴史と教訓は決して風化させることなく、しっかり継承していかなければならない。「コンプライアンスの遵守」と「お客さま志向」が「信頼を得て選ばれる続ける、人に一番やさしい生命保険会社」の土台にあることを記憶してほしい。
- また、多くの被害者を出した2011年3月の東日本大震災では、被災地の当社の職員は、自らが被災して困難に直面しているにもかかわらず、避難所から避難所へお客さまを探してまわり、最後の1件に至るまで、保険金・給付金の請求の手続きを進めた。現在の当社における高齢者対応や、契約者の連絡先に加え家族などの連絡先を事前登録してもらう「MY安心ファミリー登録制度」などは、こうした対面のアフターフォロー活動が前提であり、すべて「震災が原点」となっている。

○行政処分、大震災などの危機のたびに、立ち上がって、お客さま・仲間・会社を救ったのは、チーム明治安田のメンバーであった。是非、こうしたDNAを引き継いでいただきたい。

#### 4. 終わりに

○最後に、スティーブ・ジョブズの有名なスタンフォード大学卒業式でのスピーチをご紹介します。彼はそのなかで、点はつながるんだと言っている。若いときに経験する様々な出来事、様々な出会い。こうした点・ドットが、将来どんな点と結びつくのか、そのときにはわからないけれども、将来必ず点はつながる。だから、運命やご縁を信じて、好きな仕事をやりなさいということを語っている。

○おそらくジョブズの言葉を意識したうえで、芥川賞作家の川上未映子さんはこんなことを言っている。「ひとの幸せはずっと線のように持続するものではなく、流れ去る人生のそこかしこに点在するもの。あの日あのときあのひとが、あんなことを言ってくれた。こうした点をつないでできる星座のようなものが幸せというものではないだろうか」。

○2022年4月1日。今日のこの日が、みなさんの胸のなかに一つの点となり、星と輝き、将来それが別の点とつながり、綺麗な星座を紡ぎだしてくれることを、心から祈っている。たくさんの仲間と力をあわせ、ともに新しい時代を創っていこう。みなさん一人ひとりの成長に大きな期待を寄せるとともに、輝かしい未来と実り多い人生を心から祈念して、私からのお祝いの言葉とする。

以上